

あれから何度も…  
私は脱出を試みた…

団長ちゃんを  
助けるために…

「懲りねえ奴だな  
この牛乳女は！」

「放してっ!!」

「放さないっ!!」

「お仕置きが  
足りてねえのっ!!」

でも…力を落とされ  
媚薬で体の自由が  
利かない私は  
すぐに捕まってしまい

その都度私への  
行為は激しさを  
増していった

「このデカ乳から母乳が  
吹き出る日が来るのが  
待ち遠しいぜ!!」

「痛…っ!!  
いやっ  
ああああっ!!」

媚薬で開発の進んだ体は  
次第に痛みも快楽に変わり

ついに絶頂を  
覚えさせられてしまった…

「お今インたぞ  
まじっ!!」

「イ…っ!!」

「結構頑張ったな  
その分我慢しての反動で  
全身痙攣しまくってるぜ」



一人…  
また一人と…



気が付けば見知った  
騎空団の人たちもいた…

皆团长ちゃんのこと  
を心配して探し回って  
くれたのだらう…

でも…彼女達は  
私と同じ「雌」…

結果は変わらない



「雌」の  
慟哭が聞こえる



彼女たちはこの下卑た  
者たちの陥穽に嵌り

男たちの  
子種で真っ白に  
穢されていった…

媚薬で体の芯を  
焦がされながら  
アソコを  
無理やり貫かれ…

毎日気絶するまで  
絶頂させられ  
大量の子種を  
注がれた私の体は

既に快楽で  
屈しかけていた

「おい、この毎回  
逃げ出すから  
何人か衛兵回しとけ」

このままじゃいずれ  
心も屈してしまう…

でも…それでも  
目的を達成するまで  
私はこれを  
繰り返すしかない…

衛兵の目が  
団長ちゃんから  
私に向き始めている…

「私」ではなく…  
「団長ちゃん」を  
逃がすために…

それだけが  
今の私の心の支え…

そして…

「おい！そっち探せ」

「まだ遠くには  
行ってないはずだ」

「あ、雌ドラフが!!!」

「あのジータって  
ガキを逃がすために  
ずっと囮になって  
やがったのか!」

「おいそれよこせッ!!!」

「これでも  
しゃぶってるッ!!!」

「すくなく近隣の  
マフィアにも知らせて  
探させる！」

団長ちゃんが脱走し  
困だった事がバレた私は  
自らの髪で縛られ  
磔にされた後  
ひどい拷問を受けた…

折れた愛刀の柄で  
貫かれても  
絶頂してしまう…

それほどもでに  
私の体は  
淫らに壊されていた

薄れゆく意識の中

「どうするこいつ？」  
「決まってるんだろ」

「これから毎日便器として  
常にマンコには2本  
ぶち込んで」

子宮が使い物にならなくなるくらい  
犯して犯しまくって  
やるんだよ!!

「なんなら  
拳突っ込んででも  
構わねえ！」

「後は他の奴らへの  
見せしめとして  
磔だ！」

耳障りな…  
男の声が聞こえる…

団長ちゃんは  
どうなっただろう…

騎空団…の皆…と…  
合流でき…たかな…

…おそらく…  
私はもう助からない…

胎内で魔力が  
分裂しているのを  
感じた…

